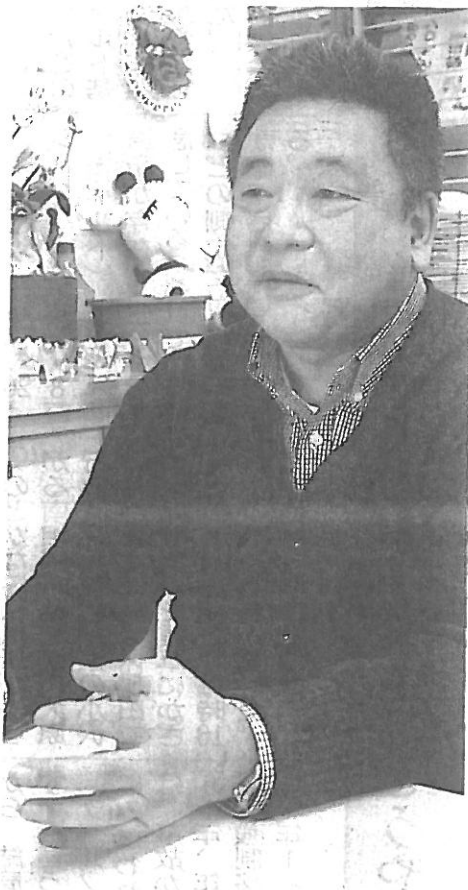


「仮住まい提供、自立促す」



おきの・みつひこ 1961年生まれ。NPO法人釜ヶ崎支援機構の理事として労働者の問題に取り組む。大阪希望館の設立に関わり、11年から運営協議会事務局長。

この人に聞きたい

雇用とくらし④

失業者らを支援する「大阪希望館」の運営に携わっています。「無料で入れる施設があり、これまでに約140人を受け入れました。家賃は寄付や自治体などからの助成でまかっています。」

大阪希望館

沖野 充彦さん (55)

居者には清掃といった軽作業をしてもらい、対価を食費や就職活動の費用にあててもらいます。そうすることで働く意欲が続く、自分の得意な仕事に分かれます。スタッフと相談しながらその人に合った就職先を考え、3〜9カ月ほどで施設を出て行きます。生活保護に頼らず、自立できる仕組みをめざしています。

「1979年から大阪市西成区の釜ヶ崎で、日雇いの労働者や野宿をしている人たちの支援に関わってきました。2006年ごろから中高年が中心だったそれまでとは違う人たちを見かけるようになりました。インターネットカフェに寝泊まりする『ネットカフェ難民』の若者が仕事を探しにきていたんです。10〜20代

失業した若者 どう支援？

のきつかけだったそうですね。



大阪希望館

2009年に労働組合や社会福祉団体などが協力して設立。大阪市北区で住まいの提供や就労支援などを行っている。電話相談(06・6358・0705)は、日曜日と休日を除く午前10時から午後5時まで。

から仕事が見つけないと相談を受けたこともあり、

「中高年に比べ仕事を見つけやすいはずの若者の厳しい状況に、衝撃を受けました。派遣としていろいろな職業を経験しても、技術を積み上げられない。自分に誇りが持てない人も多かったです。そこで仮住まいを提供し、訓練作業ができる支援組織をつくることになりました」

大阪希望館を始めてから7年近くたちました。最近雇用環境が良くなっていると言われます。「経済状況はよくなりましたが、雇用をめぐる環境は引き続き厳しい。安定し

た仕事は見つけないままです。希望館から出た人でも契約更新がされなかったり、次の仕事が見つからなかったりすることが多い。手紙を出しても戻ってこないなど、半数は音信不通になってしまっています」

15年度から女性にも支援の窓口を広げました。「女性から親も知人も頼れないといった相談があり、支援の必要性を感じました。希望館では内容に応じて、別の支援団体につなぐこともしています。女性に限らず、家庭の状況や病気など様々な理由でホームレスになってしまっている人がいます。一人ひとりの状況に応じた自立支援が求められています」(新宅あゆみ)

若い世代でも仕事がなく住むところを失ってしまう人もいます。社会全体で自立を支援する仕組みが求められています。皆さんの情報をo-keizai@asahi.co.jpにお寄せください。